



能登やさしいこめづくり情報

令和2年8月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
JA能登わかば

中生収穫編

「適期刈取り」、「適切な乾燥・調製」で品質向上！！

1 生育概況と当面の管理

- ・コシヒカ리의出穂期は8月3日に迎えたことから、刈取り適期は9月7日～13日(刈始：9月3日)の予想となっています(8/27時点)。
- ・8月2日の梅雨明け以降、高温となる日が続いています。今後も気温の高い日が続くことから高温登熟年(出穂以降、高温で経過)となると予想され、このような年は乳白粒や胴割粒の発生が多くなります。
- ・当面の管理としては、刈取り直前まで適正な水管理(①乾かさない! ②ずっと溜めない! ③早期落水しない!)を継続し、登熟の向上に努めましょう。
- ・また、中能登エリアでは、乾燥・調製の際の「もみ混入」や「肌ずれ」による落等が目立っています。適切な乾燥・調製を心掛け、品質の向上を目指しましょう。

2 刈取りまでの水管理

- ・登熟期の水管理は、品質や収量向上に最も重要な管理となります。間断通水を刈取り直前まで継続しましょう。
- ・ため池など用水不足が懸念される地域では、計画的な水管理に努めましょう。

【間断通水の徹底】

- ★ 乾かさない! ⇒ 3～5日間隔を目安に通水し、土壌の飽水状態を保ちましょう。
<注意>日中の気温が30度を超える日が続くときは、できるだけ夕方に通水しましょう。
- ★ ずっと溜めない! ⇒ 気温が高い日中の湛水状態は根の機能を低下させるため、避けましょう。
- ★ 早期落水しない! ⇒ 早期の落水は未熟粒や胴割粒の発生を助長するため、収穫直前まで通水をしましょう。

3 本年の刈取り時期について

(1) 本年の刈取り時期の目安(8月27日調査)

品 種	出穂期	刈取り時期	籾黄化率	(前年の刈取り時期)
コシヒカリ	8月3日	9月7日～13日 (刈始：9月3日) 【山間地+3日】	80～85%	9月4日～8日 【山間地+3日】

[注意]刈取り時期は、出穂期や田植え時期、ほ場や生育条件、天候によって前後します。

★上記の刈取り時期は目安とし、ほ場の『籾黄化率』を必ず確認した上で、適期収穫に努めてください。

[参考]籾黄化率とは……1穂の全籾のうち、緑色素が消え黄色く変色した籾の数の割合のことです。

【高温登熟年：籾の黄化程度による刈取り適期判断の目安】

籾の黄化程度	30%	40%	50%	60%	70%	80%	85%	90%
刈取り適期	15～16日後	12～13日後	10日後	7～8日後	5日後	2～3日後	適期～刈終り	刈遅れ

高温登熟年は籾の黄化が一気に進む

収穫期間

籾黄化率80%の穂のイメージ



(2) 高温登熟年での刈取りについて

- ・高温登熟年は、籾の黄化が早くなるため刈取り適期が短く、刈り遅れると「胴割粒」や「着色米」が発生しやすくなります。
- ・そのため、高温登熟年では次項の刈取り目安を参考に、適期刈取りに努めましょう。

【高温登熟年の刈取り目安】

●籾黄化率80%から収穫を開始し、刈り遅れないよう黄化率85%までに収穫を終えましょう。

※高温登熟年におけるコシヒカ리의刈取り適期の目安は、『登熟積算温度』で980～1,030℃

※高温登熟年におけるひやくまん穀の刈取り適期の目安は、『登熟積算温度』で1,100～1,150℃

[参考]登熟積算温度とは……出穂期以降の日平均気温の積算で算出できます。

作業のポイント

収穫

(1) 刈取り前に、ほ場内のクサネムを必ず除去しましょう。

・次年度の発生予防のため、クサネムは畦畔に放置せず、ほ場外に廃棄してください。
クサネムの種子は、ライスグレーダーで取り除けないため、**異物混入で落等**の原因となります。



クサネム種子
(黒い粒:左)

(2) 早期に倒伏した部分や早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、別刈り・別乾燥で調製しましょう。

・早期に倒伏した部分は乳白粒等の未熟粒が発生しやすく、水不足等で早期に登熟(ヤケ照り)した部分は、胴割粒、未熟粒、着色粒が発生しやすくなります。

(3) 刈り取った籾は、速やかに乾燥機に張り込みましょう。

・刈取りから**4時間以内に乾燥機へ張込み、通風**しておくことで、ヤケ米(菌の侵入を受けて着色した米)の発生を防止することができます。
・水分が高い籾はヤケ米の発生を助長するので、**降雨直後などは無理に収穫を行わない**ようにしましょう。

乾燥

(1) 急激な乾燥や高温乾燥は避けましょう。

・乾燥中の籾の温度は、35～40℃以下で、乾減率0.8～1.0%/時程度とします。 → **胴割粒の発生防止**

(2) 籾水分のムラ、余熟乾燥や戻り乾燥に留意しましょう。(乾燥機の水分計を過信しない)

・**籾水分は、14.5～15.0%**になるように仕上げましょう。
・籾の水分過多では「肌ずれ」、過乾燥では「胴割粒」が発生しやすくなるので注意しましょう。
・**適期に収穫しても籾水分にムラがある場合は、『2段乾燥法』**を用いましょう。

[参考] 2段乾燥法とは……

籾水分を一旦、18%程度で乾燥機を止め、5～8時間おいて調湿した後に、14.5～15.0%に仕上げ乾燥を行う方法のことです。

・青米粒の混入割合によって、乾燥機を止める時の水分や停止後の水分変化が違うため、注意しましょう(右の表を参照)。

【乾燥機の停止水分判定表】

100粒中の青米粒	乾燥機を止める玄米水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.5～15.1%	乾く(下がる)
6～10粒	15.0～14.6%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.5%	もどる(上がる)

調製

(1) 事前に籾摺機の点検整備を実施しましょう。

・「肌ずれ」、「胴割粒」の発生を抑えるため、籾摺前に**籾水分(14.5～15.0%)**を確認しましょう。
・作業開始前だけでなく、**作業中も籾摺りの程度をこまめに確認**しましょう。 → **もみ混入、肌ずれ粒発生防止**
・籾が混入している場合は、籾の流入量・ロール間隙・選別機の調整を実施してください。

(2) ロールの間隙は、籾厚の1/2が目安です。

・ロールの間隙を締めすぎると「胴割粒」や「肌ずれ」、広いと「もみ混入」が発生しやすくなるので注意しましょう。
・ロールが摩耗・劣化している場合は、交換してください。

【着色粒(斑点米、褐色米など)による落等の目安】

1等 1,000粒中 1粒まで
2等 1,000粒中 3粒まで
3等 1,000粒中 7粒まで
規格外 1,000粒中 8粒以上混入

着色粒は白いカルトンで確認



【もみ混入による落等の目安】

1等 1,000粒中 4粒まで
2等 1,000粒中 8粒まで
3等 1,000粒中 17粒まで
規格外 1,000粒中 18粒以上混入

もみ混入は黒いカルトンで確認



(3) ライスグレーダーの網目のサイズはLL網(1.9mm)を使用し、整粒歩合80%を目指しましょう。

・LL網(1.90mm)を使用し、調製は適正流量で整粒歩合の向上を図りましょう。

<1.90mm網の特徴>

・未熟粒(青未熟・白未熟)を除去できるため、品質向上につながります。



1.9mm以下の玄米品質は非常に低い

【適期刈取、適正な乾燥調製作業の徹底!!】

- ◎ 胴割粒の発生防止のため、コシヒカリの収穫作業は籾黄化率80%から開始し85%までに!
- ◎ ヤケ米発生防止のため、刈り取った籾は速やかに乾燥機に!!
- ◎ 無理のない乾燥調製作業で、胴割粒、肌ずれ、籾混入の発生防止!!!

【注意!!】カメムシ防除剤としてキラップ粉剤DLやキラップ粒剤、キラップフロアブルを散布した場合は、散布日から14日以降での刈取りを厳守してください(上記の農薬は、使用時期が「収穫14日前まで」と定められています)。